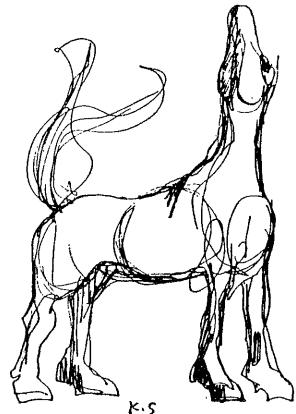


# 73年の大馬鹿



四歳陣はシンザン以来初のダービー・菊花賞二冠馬タケホープが、47年の菊花賞・有馬記念馬イシノヒカル、皐月賞・ダービーの二冠馬たる46年のヒカルイマイや45年のタニノムーティエ工と同戻の63キロ。ハイセイコーが62キロ。一方、古馬は秋よりもメンバーが粒揃いの春の天皇賞馬タイテエムと、秋の天皇賞を含む三重賞勝ちのタニノチカラとおのれの力量、成績面を勘案して同戻の62キロ。

## 四歳馬

タケホープに

いくつをつけるか

る。春の時点ではハイセイコーもなかなかよかつたんだが。

——ダービーと菊花賞の両方を取った馬というのはシンザン以来出でていない。強いことはもち論としても、例年に比べてどうなのか。

藤田 一昨年度のイシノヒカルの63キロというのがあるけれど、あの時

エクスペリメンタル・フリー・ハンデキャップを作成いたしたいと思います。順序として、まずは四歳馬から。

吉田 ダービーを四歳クラシックの焦点と考えるならば、ダービー、菊花賞の二冠を制したタケホープが、やはり一番強いということになら。

——恒例により、昭和48年度の

藤田 私が作成した試案というの

の四歳と去年の四歳とを比較する

と、ロングエース、ランドプリンス、

タイテエムの三強というか、イシノヒカルを加えた四強というか、当時の

方が強かったように思われる。ダービーのレース内容からいってもお

とどしの方があつた。

堀尾 今回の方が、ハイセイコー

争いは庄巻だつたし、粒が揃つていてたという感は否めない。去年はその点、ハイセイコー、ハイセイコーといつたが、その辺の所を専門家の皆さんには、どのようにご覧になつているか伺いたい。

藤田 私が作成した試案というのは、おととしよりも1キロ軽く62キロを頭にしてみた、タケホープでね。

——45年のタニノムーティエだとか、43年のやはり三強といわれたマーチス、タケシバオー、アサカオの時代と比べてどうなのか。

司会／編集部	柴田裕也	田中也	西田裕也	吉田秀也	近藤邦夫	堀尾充輔	藤田明徳
(栗東)	(栗東)	(栗東)	(栗東)	(栗東)	(東京)	(東京)	(本山)

に明け暮れただけに弱いような気がする。私もタケホープを頭に持つて、さてそれから60<sup>\*</sup>にいくら足すかで迷つてしまつてね(笑い)。例年のフリーハンデを見ると、47年のイシノヒカルが63<sup>\*</sup>、46年のヒカルイマイも同じ……。それからいくと、結局61<sup>\*</sup>～62<sup>\*</sup>のタケホープというこ

とで、皐月賞一冠だけのハイセイコーは、さらに2<sup>\*</sup>ぐらい少ないのではないか。

——セントライト、クモノハナ、トキノミノル、クリノハナ、ボストニア、コダマ、メイズイ、シンザン、タニノムーティエ、ヒカルイマ

イというふうに、皐月賞、ダービーと連勝している馬は十頭もいるが、ダービーを勝つてから夏を越して菊花賞を制覇している馬は、セントライト、クリフジ、シンザン、タケホープの四頭を数えるのみで、その点は高く評価される。

藤田 そうだと思う。五着のナス

ノオーカンを除き、タケホープ、ハイセイコーも良かつたが、距離が伸びてからの成績を考えると、完全に負けているのだから。

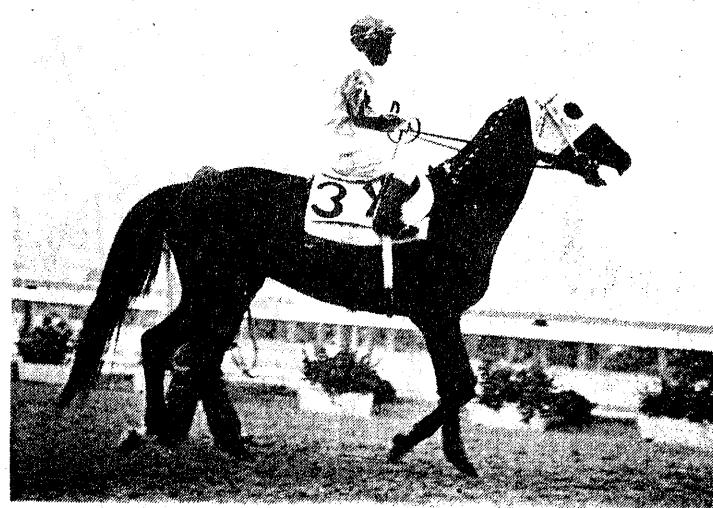
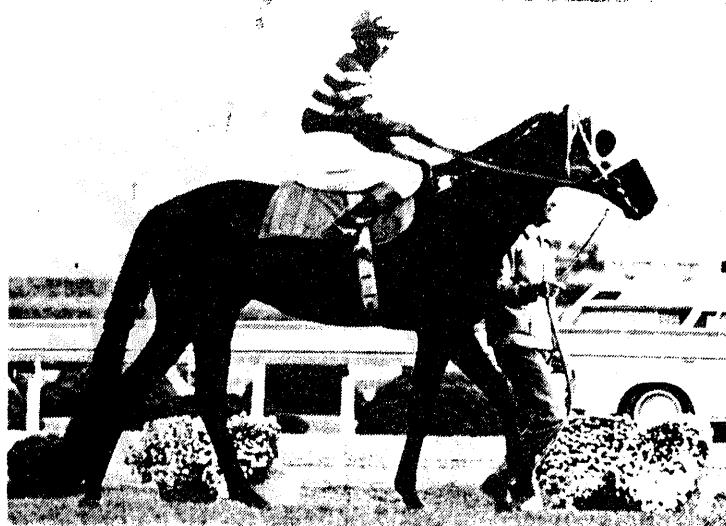
——関西の方のご意見も伺いたい。菊花賞を観られて、昨年の四歳は強かつたか。

西田 イシノヒカルを含めた四強が活躍した47年度の場合もダービーに出走した馬たちが秋まで無事に過して賑いを呈していたわけだが、昨年よりも少し上だつた。

ハイセイコーはタケホープにハナ差とはいえ菊花賞で敗れた。これは今年の話になるけれど、先達てのアメリカ・ジョッキー・クラブ杯などを見てのとおり、やはりタケホープが勝っているといえよう。

——先ほど藤田さんから62<sup>\*</sup>でタケホープが頭、という意見が出たが、皆さんもそのようにご覧になるのか、それともイシノヒカルと同じ線で63<sup>\*</sup>とするか、その辺は。

田中 イシノヒカルは菊花賞・有馬記念。片やタケホープはダービー・菊花賞。詰まる所、馬の顔触れで評価する場合もあれば、レースの格で評価する場合もあるし、その辺こそが議論されて然るべき所ではな



## 四 歲 馬

### タケホープ

### ハイセイコー

チフジイサミ、ハイセイコー、ホウ

シュウェイトと、ダービーに入着し

た馬はそのまま秋の菊花賞でも使っ

ているんだから、その点、一年間を

通しての評価は割にしやすいのでは

ないか。そうしてみると、やはりタ

ケホープに軍配が上がつても異論は

あるまい。当初の春の頃はさすがに

ハイセイコーも良かつたが、距離が伸びてからの成績を考えると、完全

に負けているのだから。

いか。

ハイセイコーがタケホープより下  
とみるのは道理としても一頭並べて  
置いてあとをガタッと落とすのも一  
法ではあるのだが……。

去年のタケホープはかなり強  
かった。有馬記念には出走しなか  
つたが、現実にダービーと菊花賞を  
手中に收めてもいるし、人気をかぶ  
り過ぎたハイセイコーの陰に隠れて  
どことなく影薄かりしの嫌いはある  
けれど、相当高い評価をしていいの  
では。

田中 頭触れからいけば、去年の  
タケホープは一昨年のイシノヒカル  
の場合と比して、フリーハンデも63  
より落ちますな。

藤田 三強を押えて菊花賞に勝

ち、かてて加えて有馬記念をも見事  
制覇したからこそイシノヒカルも63  
までいった。然るに、去年はタケ  
ホープとハイセイコー二頭だけの対  
決という感じで、一昨年より肩が薄  
い点で若干迷わざるを得ない。

田中 一番強いタケホープについ  
ては高い評価を置いたにしても、あ  
とが綺麗に続かないのではどうも  
ね……。

—— 昨年のフリー・ハンデを決め  
た時ほどの混戦では確かにない。

藤田 ただ、例年よりも牝馬は強  
かった(笑い)。

—— 何はともあれ、まずはタケ  
ホープを決めていただきたい。62<sup>キ</sup>  
か63<sup>キ</sup>か、その辺の調節は如何。

田中 およそダービーはフロッグ

覧 去年のタケホープはかなり強  
かった。有馬記念には出走しなか

つたが、現実にダービーと菊花賞を

手中に收めてもいるし、人気をかぶ

り過ぎたハイセイコーの陰に隠れて  
どことなく影薄かりしの嫌いはある  
けれど、相当高い評価をしていいの  
では。

田中 頭触れからいけば、去年の  
タケホープは一昨年のイシノヒカル  
の場合と比して、フリーハンデも63  
より落ちますな。

藤田 三強を押えて菊花賞に勝

ち、かてて加えて有馬記念をも見事  
制覇したからこそイシノヒカルも63  
までいった。然るに、去年はタケ  
ホープとハイセイコー二頭だけの対  
決という感じで、一昨年より肩が薄  
い点で若干迷わざるを得ない。

田中 一番強いタケホープについ  
ては高い評価を置いたにしても、あ  
とが綺麗に続かないのではどうも  
ね……。

—— 昨年のフリー・ハンデを決め  
た時ほどの混戦では確かにない。

藤田 ただ、例年よりも牝馬は強  
かった(笑い)。

—— 何はともあれ、まずはタケ  
ホープを決めていただきたい。62<sup>キ</sup>  
か63<sup>キ</sup>か、その辺の調節は如何。

田中 よおよダービーはフロッグ

では勝てないんだな、という印象を

強くしたのはタケホープが菊花賞を  
ものにした時だった。何といつて  
も、ダービーは四歳クラシックの金  
看板だから……。あの強かつたイン  
ノヒカルすらダービーではロングエ  
ースの6着に敗れているし、ダービ  
ーの重味は大だ。

—— 菊花賞・ダービーの二冠馬たるタ  
ニノムーティエ、ヒカルイマイもト  
ップウェイトの63<sup>キ</sup>だった。臘月賞

よりも菊花賞の方が比重の面で勝る  
と私は見るのだが、そうなると、ダ  
ービー・菊花賞の二冠馬タケホープ  
が63<sup>キ</sup>より低くては物事の辻褄が合  
わなくなる。馬の頭触れではなくレ  
ースの格という面に眼を向けると、  
タケホープは強かつた。

吉田 その意味では、タケホープ  
の二冠は相当高く評価されなければ  
嘘だね。タケホープ63<sup>キ</sup>でもおかし  
くは決してない。

柴田 イシノヒカルは有馬記念勝  
ちがあつたればこそ63<sup>キ</sup>となつた。  
菊花賞一冠だけなら三強を上回るこ  
とはありえなかつた。タニノムーテ  
イエにしてもヒカルイマイにして  
も、春だけの馬で秋の勝敗は一つも  
ない。

各務 四歳の頂点たるダービーに  
勝つて、あまつさえ成熟度を最後付  
ける菊花賞にもまたタケホープは凱  
歌を挙げていいのだから、ヒカルイ  
マイに伍しても後塵を拝することは  
まずなかろう。

—— 今年のAJC杯の出走頭数

十頭中、イチフジイサミ、ホツカイ  
ダイヤ、ベルワイド、ハイセイコー、

ニットウチドリの五頭は有馬記念出  
走馬でもあつた。にも拘らずあの勝  
ちぶりだから、いかにタケホープ  
なる馬が強いか。

近藤 ハイセイコーとの差を何<sup>キ</sup>  
にするかが問題だ。臘月賞の一冠馬  
でもあるんだから60<sup>キ</sup>以下にはでき  
ない。

近藤 ハイセイコーとの差を何<sup>キ</sup>  
にするかが問題だ。臘月賞の一冠馬  
でもあるんだから60<sup>キ</sup>以下にはでき  
ない。

田中 同じく臘月賞馬ランドブリ  
ンスはイシノヒカルとの2<sup>キ</sup>差で61<sup>キ</sup>  
だったが、ランドプリンスよりは  
ちょっと強いかな、この馬は。

各務 菊花賞ではタケホープのハ  
ナ差だったしな。

近藤 タケホープという馬は、受  
けた感覚からして地味だ。皆んなの  
印象からすると、実力以上に地味か  
もしれない。思い切って、タケホ  
ープとハイセイコーに3<sup>キ</sup>差ぐらいつ  
けてもいいのではないか(笑い)。無  
論、ハイセイコーは決して弱くはな  
いにしても。

田中 ハイセイコーは、地方競馬  
からずっと働き詰めて長い間調子を  
維持したという点は褒められてよ  
い。

—— 今の近藤さんのご意見だ  
と、ハイセイコーはタケホープと3<sup>キ</sup>  
差、しかも60<sup>キ</sup>以下にはできない  
となると、タケホープは少なくとも  
63<sup>キ</sup>になる。そういう計算からする  
とかな。

近藤 切味という面では、タケホ  
ープという馬は確かにいいものを持  
っている。片やハイセイコーは鈍と

かない。とすると、あとが困る。ハイ  
セイコーの下に3<sup>キ</sup>はあるから、63<sup>キ</sup>  
と60<sup>キ</sup>57<sup>キ</sup>となってしまう(笑い)。

近藤 貢献度はあるな、ハイセイ  
コーよ。

各務 大衆賞は貰っていることだ  
し(笑い)。

藤田 マスコミには貢献している  
でしょう(笑い)。タニノムーティエ  
が63<sup>キ</sup>でトップハンデの時は、2番  
目がダテテンリュウで61<sup>キ</sup>。

各務 ダテテソリュウといえ、  
ダービーはタニノムーティエの2着  
で菊花賞馬。四歳の12月の有馬記念  
ではスピードシンボリのきわどい三  
着。

田中 そうなると2<sup>キ</sup>ぐらいか。  
—— となると、63<sup>キ</sup>と61<sup>キ</sup>でち  
ょうど落ち着きのいい所という気も  
するが。

藤田 タケホープ63<sup>キ</sup>の線が濃く  
なってきた感じだな。——人気を引  
き合いに出すのもおかしな話だが、  
ダービーの時あの馬は9<sup>キ</sup>10番人気  
の馬だった。たまたまレース展開に  
恵まれたようだが、ハイペースの競  
馬だったからじつと待つて二頭  
で決まったという具合に、人気をか  
ぶつていなかつただけにレースのし  
やすさに恵まれたということはある。  
とはいえ、勝った以上は紛れもなく強  
いわけで、それを認めるのに  
やぶさかではないが。

近藤 切味という面では、タケホ  
ープという馬は確かにいいものを持  
っている。片やハイセイコーは鈍と

いうか、決め手に欠けるというか、ジリジリ、ジリジリくる馬だ。 $2\frac{1}{2}$

ぐらいかな、つけるとすれば。

筧 弥生賞に始まってスプリング

S、皐月賞、NHK杯、と前半の重

賞を四連勝したダービー前の実績を

買うと $1\frac{1}{2}$ 差ぐらいだが、年間を通して見た場合、タケホープは皐月賞に出走していないが、 $2\frac{1}{2}$ ぐらい欲しい所。

ただ、実際のレースでの負担重量

差ではなくして四歳クラシックを中心にしてフリーハンデ的にものを考

えた場合、春の実績に加えて京都新

聞杯はトーヨーチカラに $\frac{1}{2}$ 馬身差の

2着で、菊花賞はタケホープにハナ

差の2着なのだから、やはり $1\frac{1}{2}$ の

線でどうか。タケホープの場合も、

ダービー前の三回東京三日目の四歳

中距離Sに勝たなかつたら、収得賞

金高の関係でダービーにも出されなかつたかもしれない、……制度の善

し悪しはさて置き。

藤田 先ほど田中さんがいわれた

「レースの格かはまた馬の顔触れか」という問題設定にも通底する

が、ダービー・菊花賞を取つたら文

句なくハンデ頭にすることを専らに

する方<sup>式</sup>と、それを補正する形で、一応例年のハンデをも斟酌勘案した

上で頭の上限を決定する方式との双方があろうかと思う。

後者に則るならば、48年度は総じて層の厚さに欠け、タケホープの63

にはいささか疑問の余地無しとする。

堀尾 両者は大体 $1\frac{1}{2}$ 差で構わないと三連勝したあと、朝日チャレンジ

カップ、ハリウッドターフクラブ賞

記念があればこそで、 $62\frac{1}{2}$ と $61\frac{1}{2}$ と

いうのはどうだろう。

柴田 ヒカルイマイが $63\frac{1}{2}$ ならこ

れも $63\frac{1}{2}$ でいいのではないか。

筧 一つだけのランドプリンスが $61\frac{1}{2}$ なら、8戦4勝で重賞勝ち四つのハイセイコーが $62\frac{1}{2}$ というのはどう

か。

—— それでは、一応ハイセイコ

$—62\frac{1}{2}$ 、タケホープ $63\frac{1}{2}$ として、あ

と他の馬を検討して不都合が生ずれば動かすということで話を先に進めます。

## II 古 馬

(以下省略)

スを皮切りに、積丹特別、利尻特別と三連勝したあと、朝日チャレンジ

カップ、ハリウッドターフクラブ賞と重賞二連覇。ベルワイドの三着に終わった目黒記念のあとに秋の天皇賞を制覇して、有馬記念は4着だった。

西田 前回の $62\frac{1}{2}$ のヤマニンウエ

ーブは、京都記念、秋の天皇賞と勝っている。47年度と48年度を安易に比較することはできないにしても、

安田記念・札幌記念と勝ったあと、函館記念でエリモカップの二着に敗れています。

—— ただ、フリーハンデの場合

はどういうふうにするかが問題だ。

近藤 何を頭に置くかといえば、やはりタイテエム。

各務 出走を見合せたハクホオ

シヨウには悪いけれど、秋よりもメ

ンバーが粒揃いの春の天皇賞に勝つたタイテエムは、タニノチカラよりも確かに強い。

田中 タイテエムもタニノチカラも同じフリーハンデでいいと思う。

各務 力量からはタイテエムだが、成績から

しかし、京都記念と宝塚記念の勝

馬で、高松宮杯でトップを奪いながらG前1沿付近で疾病を発症して斃死したハマノパレードに、タイテエムは宝塚記念で負けているのだから混戦気味だな(笑い)。

各務 あの時のハマノパレードはコード勝ちだった。

筧 いずれにしてもタイテエム、タニノチカラは、年間の活躍からするとヤマニンウエーブの $62\frac{1}{2}$ よりは上だね。

—— 馬の強さからいえば、タイ

天皇賞を含む三重賞勝ちの内容からはタニノチカラも強かった。

藤田 私は春の天皇賞の方が上と見ているが。

堀尾 タニノチカラは層の薄いメンバードで勝ったような気がするんだが(笑い)。

藤田 タニノチカラも有馬記念は四着だったし、目黒記念はベルワイドの三着だったからね。

—— ただ、フリーハンデの場合はどういうふうにするかが問題だ。

近藤 何を頭に置くかといえば、やはりタイテエム。

西田 46年度のフリーハンデの際など、 $64\frac{1}{2}$ のトウメイに次いでメジロアサマ、メジロムサシの二頭が仲良く $63\frac{1}{2}$ を分け合っている例もある。

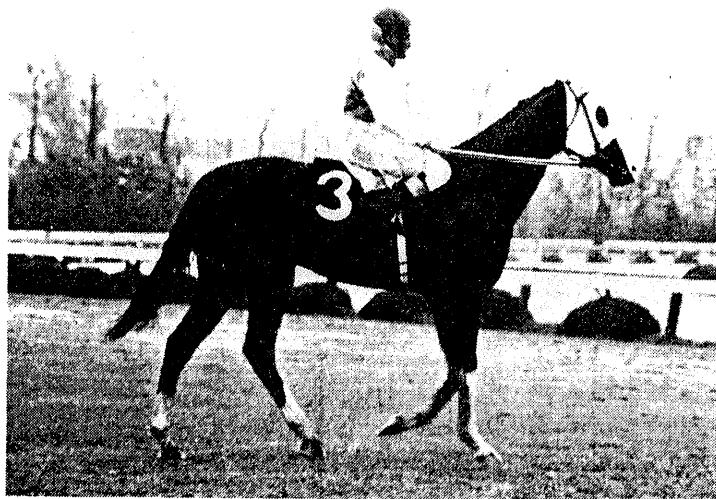
各務 タイテエム、タニノチカラを重くし過ぎると、ハクホオシヨウとの関連があるので、あとがどうもつけにくいんだな(笑い)。

田中 44年度、45年度ともにスピードシンボリが有馬記念に勝った時は $65\frac{1}{2}$ 。今回はどの程度に押えるか。

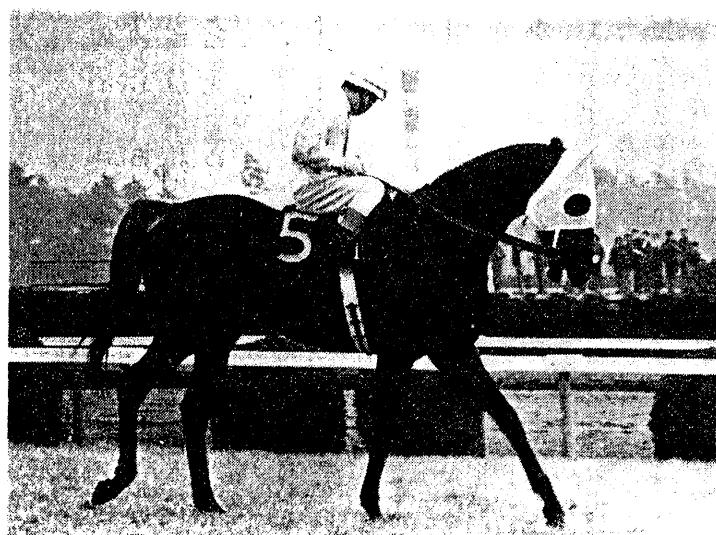
—— 条件レースからということ

# 古馬

## タイテエム



## タニノチカラ



答 全く。本当の力はハクホオシヨウが一番強かったかもしれない（笑い）。

田中 やつてみなければ分らなかつたけれど、天皇賞が始まるまでのファンの皆さんのが考えとしてもそうだったのではないか。僕はタイテエム、タニノチカラ以上の序列を作つていた。この二頭については、さらにつたのではないか。僕はタイテエムにタニノチカラを優位とみるか、あるいは同じにするかということで、二頭ともハクホオショウよりも上といふことはあまり考えなかつた。

吉田 ハクホオショウは、ああいうことになつてしまつたが、一連のハンデ戦は日刊スポーツ賞金杯の56キロから始まつて、中山記念の55キロを経由して61キロまでいき、あれだけの成績を上げてゐるのだから……。

藤田 タイテエム、タニノチカラ、あとは下がつて有馬記念のストロンゲイトとハクホオショウを並べてみたんだが。

堀尾 天皇賞を取つた関西馬二頭、タイテエムとタニノチカラを61キロで二位にして、ハクホオショウ62キロで一位に持つてき、ストロングエイトは四位で60キロにしたらどうかな、と思つたんだが。

覧 47年度もそうだつたけど、48年度もやはり年間を通じて活躍した馬は少ない。春秋の天皇賞馬もそうだし、共に出た馬はミリオンパラ、

ではヤマニンウェーブもタニノチカラも同じだが、その後の活躍ぶりではタニノチカラの方が勝つてゐることからすると、62キロよりは上になる。各務 タニノチカラはハリウッドのメンバーにしてもそんなに強くなつたのは。

田中 46年度当時の63キロのメジロ

ムサシの力を考へれば別だが、一応

ハリウッドターフではタニノチカラの二着に敗れている。

また、天皇賞では不運だつたが重賞を三つ取つてゐるのだし、ハクホオショウもタニノチカラと並べて遙かに強いとも思えるが。

田中 函館記念では、あの重馬場で61キロのハンデ頭にもめげずエリモカップの2着だから、ハクホオショウというのは大した馬だ。故障が悔まれる。

ハクホオショウをいくつにするか。次いでハマノパレード、ストロングエイトをどう評価するか。

田中 函館記念では、あの重馬場で61キロのハンデ頭にもめげずエリモカップの2着だから、ハクホオショウがともに入着した馬はオンワードガイだけ。

## '73年のフリー・ハンデ

※牝馬 ◎内国産抽籤馬  
◎父内国産馬 ◎外国産馬

四歳馬		古馬		三歳馬(西)		三歳馬(東)	
63	タケホーク	62	タインチカラウト	56	キタノカチドキ	55	カーネルシンボリ
62	ハイセイコー	61	ハクホオショウ	55	※イットー	55	ミホランザン
59	イチフジイサミ	60	ストロングエイト	54	ニホンピロスイセイ	54	アラ※イナリトウザイ
58	ディクタボーアイ	59	ハマノパレード	53	バンブトンオール	53	インターダグッド
※ニットウチドリ	59	④オンワードガイ	53	④ホウシュウミサイル	53	ウエスタンダッシュ	
④ブルスイショ一	58	ナオ	53	タニノムテキ	53	カネミクニ	
ホウシュウエイト	58	④シンザンミサキ	53	※フジノタカザクラ	53	コーネルランサー	
ユウシオ	57	トヨーアサヒ	52	マーカエイト	53	※サクラライワイ	
④シルバークーンド	57	ニホンピロムーテー	52	ヤマニモドリュウ	53	デュークホンジン	
※ナスノチグサ	57	ベルワイド	52	シュウエイライダー	53	インターフィンボ	
ヌアージターフ	57	ユーモンド	52	④シンポーラ	53	エクセルラナード	
④ホウシュウリッチ	57	クリイワ	51	ニホンピロセダン	53	※エドワールド	
アイアン	57	コ一ヨ	51	ヤマキチカラス	53	キャメロット	
カネイコマ	57	サカエカホ	51	エリモマーチ	53	アケンセダン	
カミノテシオ	57	④スガノホマ	51	カワチボート	53	スルガスンプジョウ	
※④キシュウローレル	56	タクマオ	51	※グリーンマイティ	53	※チウォーキャスル	
クリオンワード	56	メジロスイセイ	51	サニーハード	52	トキノオオウシル	
※ケイリュウシングキ	56	ヤマニンウェーブ	51	※スイートゲラン	52	※グレイベル	
シャダイト	56	インターブレイン	51	スリーバロン	52	※サクラフラワー	
スピードリッヂ	56	エリモカップ	51	スリーヨーンク	52	タケケイジョーチー	
トヨーチカラ	56	カツタイコウ	50	ソカサブリシス	52	※タマキジエース	
※レデースポート	56	※キョウエイグリーン	50	ハマノターキン	52	ハマヒュースガ	
ニューサント	55	サンヨウコウ	50	フジオックイン	52	※④ハーバーウイン	
マチカネハチロー	55	シバタケ	50	ホウスウセダ	52	マツケンオート	
レイクファイア	55	ジンデン	50	メトロシング	52	④アイアンハート	
イーストリバー	55	ナルタキエース	50	モアオーダー	52	※アイティシロー	
キクカギヨクリュウ	55	マツカオリ	50	オングードマサル	52	アザルトオンワード	
※④キクノツバメ	55	メジロムサシ	50	グッドキャッツ	52	※エビスオール	
サンボウ	55	キョウエイアタック	50	クラウンパレード	52	オートネイカン	
ストロングナイイン	55	タイホウシロード	50	スパートンオーク	52	※ケンノハルターナ	
ナスノオーカン	55	タケデンバード	50	※タイロッ	52	ツアーデミリュウ	
※ナスノメロディ	54	※フセノスズラン	50	※タケエース	52	ブルーマム	
ヒダコガネ	54	ミリオングララ	50	※タニノビクトリ	52	ミトモオードシビ	
ホッカイダイヤ	54	インタープライド	50	※タニノベンチャ	52	※カネアツコサン	
※ヤマテスコ	54	オカザキジョウ	50	※チュウオースイート	52	※カネシングコウ	
リソネルンド	53	カツヤヨ	50	ナニワライトル	52	※ハツコタカルジン	
アマツカゼ	53	④シング	50	ハママノヒカル	52	ヒタチフジジン	
オンワードバリ	53	ラフター	50	ニマサエイカ	52	ミミトモオードシビ	
キヨノサカエ	53	ノボルトウコウ	50	ヤマトバー	52	※カネアツコサン	
④ハクサンホマレ	53	※④ファインナラシ	50	ボンズ	52	※カネアツコサン	
ベルロイヤル	53	フアストバンブー	50	※ユウダンサー	52	※ハツコタカルジン	
ホワイトフォンテン	53	メトロオーカン	50	※ヨシサイサオ	52	ヒタチフジジン	
④ラズモフスキ	53	ロングワン	50	※ラッキーオイ	52	ヒタチフジジン	
リクダイニチ	53	ワンサバンナ	50	ランドグレー	52	※ヒナゲシ	
※④レディコトブキ	53		50	④ランドスイフト	52	(計 48 頭)	
ロングアロー	53		50	ワイルドマーチス	52		
(計 46 頭)		(計 45 頭)		(計 46 頭)		(計 48 頭)	

藤田 年間を通じて活躍すること  
は至難の技だ。

筧 そうなると、ハイセイコーな

んかは立派なものだった(笑い)。

田中 46年度はメジロムサシが春

の天皇賞を取っての63キロだった。ト

ウメイが秋の天皇賞と有馬記念を勝

つて64キロだった。

堀尾 47年度は春の天皇賞のベル

ワイドが61キロで、秋のヤマニンウエ  
ーブが62キロで頭だった。

——メジロムサシは目黒記念、

春の天皇賞、宝塚記念、函館記念に

勝つての63キロ。トウメイはマイラー

ズカップ、阪急杯、牝馬東タイ杯の

あと天皇賞、有馬記念に勝つての64

キロ。——ベルワイドは天皇賞に勝つ  
て61キロ。ヤマニンウエーブは京都記

念と天皇賞に勝つて62キロ。  
……となると、今回はどうなるか。

一口に優劣はつけ難いにしても。

吉田 天皇賞、有馬記念の二つを

ものにした馬がない以上、ハンデ

頭が64はない。

藤田 春の天皇賞以外にマイラー

ズカップを勝っているのだから、タ

イテエムを61キロのベルワイドと同列

——藤田 春の天皇賞を含む重賞三つ勝

ちのタニノチカラは、63キロのメジロ  
ムサシより少し下だろう。

田中 タイテエムとタニノチカラ

は同じでよい。問題はハクホオショ  
ウだ。

西田 重賞三つだけで不運にも倒

れた以上、成績からすれば61キロのベ

ルワイドに見劣りするが、ハクホオ

ショウは確かに底力があった。

近藤 タイテエムとタニノチカラ

を62で並べて、ハクホオショウは1

キロ下がたら。

柴田 ハマノパレードは60で。

各務 ストロンギングエイトも一緒に

60キロで。

——では、62キロでタイテエムと

タニノチカラ。61キロはハクホオショ  
ウ。

60キロがハマノパレードとストロ  
ングエイトということで決定を見ま  
した。

(以下省略)

には置けない。

筧 秋の天皇賞を含む重賞三つ勝

ちのタニノチカラは、63キロのメジロ  
ムサシより少し下だろう。

田中 タイテエムとタニノチカラ

は同じでよい。問題はハクホオショ  
ウだ。

西田 重賞三つだけで不運にも倒

れた以上、成績からすれば61キロのベ

ルワイドに見劣りするが、ハクホオ

ショウは確かに底力があった。

近藤 タイテエムとタニノチカラ

を62で並べて、ハクホオショウは1

キロ下がたら。

柴田 ハマノパレードは60で。

各務 ストロンギングエイトも一緒に

60キロで。

——では、62キロでタイテエムと

タニノチカラ。61キロはハクホオショ  
ウ。

60キロがハマノパレードとストロ  
ングエイトということで決定を見ま  
した。



## 三歳馬(関西)

キタノ力チドキ

イットー

西 関  
一番手  
キタノ力チドキ

III 三歳馬

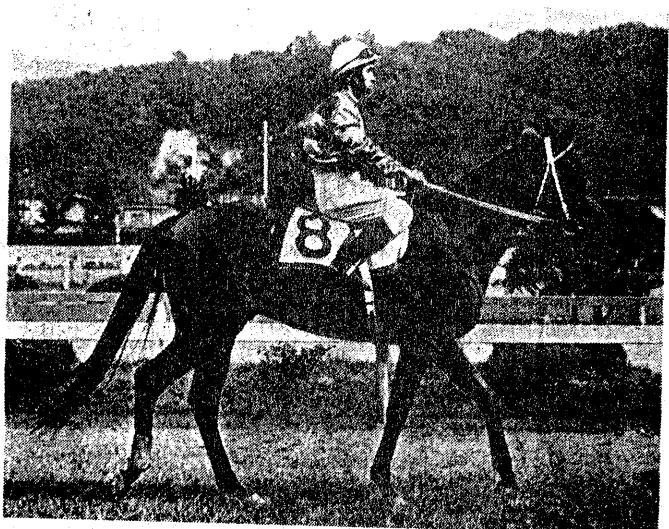
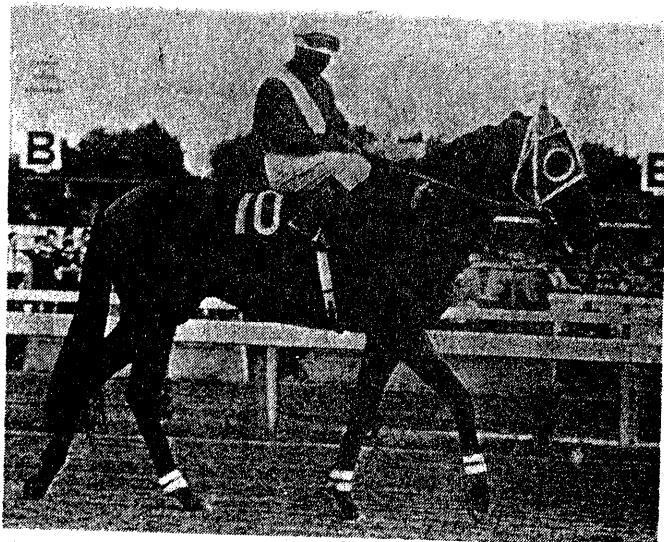
——最後は三歳部門に移りま  
す。

関西について見ると、——46年度  
は新馬戦、阪神三歳Sなど4戦3勝  
のヒデハヤテが56キロで頭。——47年  
度は新馬戦、デイリー杯三歳S、阪

## 三歳馬(関東)

### カーネルシンボリ

### ミホランザン



神三歳S勝ちを含む四連勝のキシュウローレルが56で頭。

今回は、新馬戦・デイリー杯三歳S・阪神三歳Sなど四連勝のキタノカチドキや、新馬戦に勝ち、阪神三歳S二着で3戦2勝の牝馬イットーなどが光っている。……要点だけと

いうことで、まずは関西からどうぞ。

田中 デイリー杯三歳S・阪神三歳S勝ちを含む四連勝のキシュウローレルが56で頭。

柴田 キタノカチドキが頭で牝馬のイットーが二番手とスンナリ決まるが、頭を55にするか56とするのか

田中 デイリー杯三歳S・阪神三歳S勝ちを含む四連勝のキタノカチドキや、新馬戦に勝ち、阪神三歳S二着で3戦2勝の牝馬イットーなどが光っている。……要点だけと

いうことで、まずは関西からどう

もいいのではないか。

(以下省略)

## 関東 力一ネルとミホの優劣は

関東について見ると、

46年度は新馬戦・京成杯三歳S・朝日杯三歳Sなど5戦4勝のトクザクラと、新馬戦・函館三歳S・北海道

三歳Sなど四連勝したトモエオーが仲良く55%。——47年度は新馬戦・北海道三歳Sなど9戦5勝のユウシ

オと、新馬戦・朝日杯三歳Sなど三連勝したレッドダイーグルとがこれまで仲良く55%を分け合った。

今回は、新馬戦・北海道三歳S・京成杯三歳Sなど五連勝したカーネルシンボリや、新馬戦・福島三歳S・朝日杯三歳Sなど6戦4勝のミホ

ランザンの二頭がいるが。

近藤 朝日杯を勝っている点で、

55%のレッドダイーグルやトクザクラとミホランザンは一緒だが。

藤田 重賞勝ち二つを含む四連勝という点からは、トクザクラと55%を分け合ったトモエオーと同じだし、カーネルシンボリの実力は見逃せないしね。

堀尾 46年度、47年度も分け合つたことだし、カーネルシンボリとミホランザンを並べてみるか。

寛 では、ともに55%ということに決定しましょう。

(以下省略)